

# 総論：21世紀の都市づくりの方向と課題



都市研究部長 森田 雅文

### 1. はじめに

都市をめぐる社会経済情勢は大きく変化しています。まず、人口増加の終焉とそれに関わる少子高齢化が急速に進展する中で、都市への人口集中は沈静化し、その結果、市街地の外延的拡大の時代は終わったと言われ、都心居住や既成市街地の再編整備の要請が高まっています。

また、地球環境問題等への関心が高まる中で、自然的環境や景観の保全に加え、地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の軽減などが重要な政策課題となっています。

一方、日本の各都市においては、従来から、慢性的な交通渋滞や交通事故、密集市街地など防災上危険な市街地の存在、衰退する地方都市の中心市街地など都市固有の課題を抱えています。

本総論では、以上のような状況の中で、わが国の輻輳した都市の再編・再構築の方向を探るとともに、国総研における取り組みについて紹介します。

### 2. コンパクトな都市構造への転換

1998年1月、都市計画中央審議会（当時）は都市政策ビジョンとして、わが国が人口増加や経済の急成長、市街地の拡大の時代である「都市化社会」の時代から、人口増加が終焉し、安定成長、市街地拡大のない時代である「都市型社会」の時代への移行を認識として示し、都市の歴史的転換期が来ているとしました。この認識は今日多くの人に受け入れられており、これからの都市のあり方としてコンパクトな都市構造を追求すべきであるという意見に反映されています。都市再生本部の定めた「都市再生基本方針」の中でも、都市再生の目標のひとつとして、「高度成長期を通じて生じていた都市の外延化を抑制し、求心力のあるコンパクトな都市構造に転換を図る。」と掲げられています。

コンパクトシティの概念や理念については様々な考え方があるところですが、土地の有効高度利用、都心居住の推進など種々の施策の積み重ねによりコンパクトな都市構造に転換していくことについては、環境負荷の軽減にもつな

がることから、これからの21世紀の都市づくりの基本的な方向であると思います。

### 3. 安全で快適な都市の形成

都市はわが国の大半の国民が居住し、働く場であるとともに、産業経済活動や文化活動が営まれる場です。このような「都市生活」や「都市活動」の質を高め、安全で快適な都市を形成するため、都市交通、都市防災、都市環境などの面でさらに充実した再編・再構築が求められています。

#### (1) 安全で効率的な都市交通体系の構築

交通事故を削減するとともに道路空間の快適性を向上させるため、交通安全性の向上、バリアフリー化等を推進するとともに、交通渋滞や通勤・通学混雑の解消、物流の効率化・円滑化などを図るため、道路、鉄道、港湾及び空港の各交通モードの特性を考慮し、最適な輸送の分担を実現するなど都市の総合交通体系の構築が必要です。また、これら都市交通の効率性を向上させることにより、交通に起因する環境負荷の軽減を図ることができます。

#### (2) 災害に強い安全な都市の形成

多くの国民が居住する都市は、台風、地震などの自然災害に対して、強く安全な構造であることが求められます。このため、洪水対策などの都市水害対策を推進するとともに、地震に対しては、避難地、避難路、延焼遮断帯等の整備など都市レベルでの地震防災対策を推進するほか、密集市街地等において、住民参加のもとに地区レベルでの防災まちづくりを効率的かつ効果的に推進していくことが必要です。

#### (3) 環境と共生した都市の形成

都市は資源・エネルギーの大量消費地であり、環境に大きな負荷を与えています。快適な生活環境を形成するためには、これら環境負荷の軽減に努めるとともに、水と緑を生かしたまちづくりなど自然との共生を図っていくことが必要です。これらの対策は、地球温暖化防止やヒートアイランド現象の軽減に寄与します。

前項で述べた「都市化社会」の時代から「都市型社会」の時代への移行、コンパクトな都市構造への転換という流れの中で、上記に掲げるような安全で快適な都市を形成していくことが21世紀の都市づくりに求められています。

#### 4 . 国総研における取り組み

国総研では、都市に関する様々な研究課題について、各研究部が連携して取り組んでいるところですが、本特集では、上記の視点等から7つのレポートについて報告いたします。

##### (1) 都市再生に向けた新たな整備手法および

###### 評価手法の開発

少子高齢化・人口減少社会に対応した日本型のコンパクトな都市構造の実現を目指して、都市再生のための方向や新たな整備手法の開発及び都市構造の計測・評価手法の開発に向けての取り組みについて述べます。

##### (2) 道路空間の安全性・快適性の向上

道路空間の安全性や快適性の向上を図るため、交通事故削減、時代のニーズに対応した道路空間の再構築や利用、人中心の道づくり、歩きやすい歩行環境整備等を実現すべく取り組んでいる研究を紹介します。

##### (3) マルチモーダル交通体系の構築

複数の交通モード間で最適な輸送の分担を実現するマルチモーダル交通体系の構築のために取り組むこととしている公共交通の利便性を高めて利用を促進する方策・技術の開発、商慣行の改善や各種輸送モードの活用によるマルチモーダル物流対策に関する研究、マルチモーダル交通体系の施策効果の評価に関する研究などについて紹介します。

##### (4) まちづくりにおける地域の地震防災性能評価と

###### 防災対策

地震防災上危険な木造密集市街地等において地区レベルでの防災まちづくりを効率的かつ効果的に推進するために取り組んできた地震防災上危険な地区を診断する手法、

防災性能評価シミュレーションを用いた計画案作成手法及び都市河川や緑地の防災的活用方策、防災まちづくりにおける住民合意形成手法などについての研究成果を紹介いたします。

##### (5) 河川の都市防災への活用手法

都市河川等の水辺を地震防災対策に活用するため、都市や地区のスケール毎に、河川水の消防水利への利用、河川空間機能の活用等の観点から、河川が持つ防災機能を明らかにするとともに、河川の現況評価手法、防災活用手法等について、事例を交えながら紹介します。

##### (6) 都市の環境再生

都市の環境を再生し、自然と共存した社会を形成するために取り組んでいる都市環境の再生技術に関する研究、自然共生型都市の計画手法に関する研究及び都市再生シナリオに関する研究について紹介します。

##### (7) ヒートアイランド対策への取り組み

都市のヒートアイランド現象に対する技術は、人工排熱の低減、地表面被覆物の改善、都市形態の改善など幅広い分野にまたがっており、効果的なヒートアイランド対策を実施するためには、各種対策技術を連携させて総合的に取り組む必要があります。このため、国総研では関係する研究機関と学識経験者からなる「ヒートアイランド研究会」を組織し、情報交換の場を構築するとともに、広く研究成果の発信も行っています。ここではこれらの取り組みについて紹介します。

#### 5 . おわりに

以上述べてきたように、国総研では、都市づくりに関しては、社会経済情勢の変化や社会ニーズを踏まえ、都市構造、都市交通、都市防災、都市環境など都市に関する重要な政策課題について研究に取り組んでいるところです。

今後とも、各研究部の間の連携はもとより、関係する他の研究機関等との連携・協力の強化も図りながら、着実に研究を進めてまいります。